

平成 29 年度（2017 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 1

公募により選定した指定管理者「NPO 法人市民ネットすいた」により、以下の事業を実施
平成 29 年度（2017 年度）交流スペースを含む施設利用者は 63,832 人

1 施設の使用許可業務

会議室、事務ブース、メールボックス、ロッカー、物品棚の使用許可及び使用料の徴収

2 相談事業

- ① 一般相談：市民公益活動団体の運営に関する相談、市民公益活動への参加や市民公益活動団体による支援を希望する市民からの相談など
(随時、相談 311 件)
- ② 専門相談：税理士による会計・税務相談（開催 6 回、参加者 4 名）
- ③ NPO 法人相談：窓口で随時対応したほか、NPO 法人設立講座終了後に個別相談に対応。
- ④ IT 座談会：個別相談に加えて、座談会形式で参加者同士の交流を図った。（開催 6 回、参加者 46 名）

3 情報提供・広報支援事業

- ① ウェブサイト：当施設の開催事業案内、市民公益活動団体情報、施設運営に関する情報公開など。Facebook も活用。
- ② ニュースレター：事業報告及び講座・イベント等の案内、特集記事を掲載、4 回発行（各 2,500 部）
配付先：市民公益活動届出団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、市内地縁組織、他市の間接支援組織など
- ③ ちらし同封サービス：ニュースレターを配付する際、市民公益活動団体のちらしも同封するサービス。団体・事業の紹介をし、市内に広めた。
配付先：市民公益活動届出団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、市内地縁組織、他市の間接支援組織など
- ④ 市民公益活動団体ガイドブックの更新管理：ウェブサイトの情報を随時更新。
- ⑤ メールマガジン：センターの事業案内、助成金情報、市民公益活動団体等のイベント情報やボランティア情報等、2 週間に 1 回発行。
対象：市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

平成 29 年度（2017 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.2

4 講座・研修事業

講座名	実施回数・内容		参加者数
ボランティア・NPO 初歩講座	12 回	少人数の受講者を対象に市民公益活動の基本的なことを解説し、個別相談にも対応。NPO 活動やボランティアグループのデビューのきっかけもつくることできた。	36 名
地域活動デビュー講座	1 回	「ソーシャルな活動って何？」をテーマに、eN カレッジすいたのイントロ講座として開催。	26 名
NPO 法人設立講座	4 回	NPO 法人制度について知ってもらい、市民公益活動団体の創設や法人化に役立ててもらおう講座。	17 名
会計・税務に関する講座	3 回	地域諸団体向け会計講座、活動計算書の作り方をはじめとした市民公益活動団体・NPO 向け講座を開催。	11 名
団体情報の発信に関する講座	3 回	チラシ、名刺、イラストなど具体的な広報手段として役立つ講座を実施。	58 名
財源の確保に関する講座	4 回	補助金、助成金、会員拡大、自主事業財源などをテーマにした講座。吹田市市民公益活動の支援補助金説明会も実施。	38 名
NPO・ボランティアグループ運営講座	3 回	コミュニケーションに特化した講座（エンパワーメント、アサーティブ）のほか、ホワイトボードの活用術を学ぶことで会議を円滑に進める講座を実施。	58 名
地域コミュニティ運営講座	3 回	地域課題をビジネスの手法で解決する事例について学ぶ講座、地域との関わり方や市民自治について学ぶ講座を開催。	77 名

平成 29 年度（2017 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 3

5 交流・連携促進事業

交流・連携事業名	実施回数・内容及び目的		参加者数
かえっこバザール プレイベント	1 回	企画運営主体を実行委員会から「まちあそびプロジェクト」に切り替えて、プレイベントでは、ラコルタサポーターの協力を得て、竹で作ったスタードームの設置を行った。	8 名
かえっこバザール 本番	1 回	使わなくなったおもちゃを捨てずに再利用することで、環境負荷を低減すると同時に世代間交流を通じて、地域の活性化を図るこのイベントは、子供たちに主体性を育む幅広い体験の機会を提供し、また、プラザ内各施設の連携促進、にぎわいづくりにも貢献。	約 380 名
団体交流会	2 回	NPO、地縁団体、事業者、行政を交えた交流会を実施。団体活動へのヒントを得たり、支援機関や他団体と連携して事業を行ったりするきっかけづくりを行った。	56 名
市民協働マッチング	随時	市民協働のニーズを受け付けて、分野やセクターを越えた連携・マッチングの支援ができる状況を整え、他事業から生まれる交流・連携の事業に発展させることができた。	—
現場で学ぶ団体運営学習会	随時	相談等事業で、相談者に活動事例を知ってもらうことが有効と思われるケースがあれば、市内外を問わず適切な団体に見学の受け入れの交渉をして、市民や団体が先駆者の経験と活動の現場を直接見聞きできる機会を作った。	10 名
テーマカフェ	13 回	特定のテーマで自由に語り合える「カフェ」を開催し、関心のある人たちが集まる交流の場を提供。テーマ：「大人の発達障害」「市議会見学会」「自治会活動」「PTA」「定年後の生きがいづくり」等	200 名
「このゆびとまれ」の会	随時	市民公益活動でやりたいことが具体的にある個人に対して、団体やプロジェクトの立ち上げ支援や運営サポートを行った。今年度、キタオオサカ大学オープンカレッジを実施。	58 名
地域コミュニティコラボ事業	4 回	地域力を高めるため、地縁団体などの地域コミュニティを支える団体のマネジメント力などの強化や、活動に役立つスキルの向上を図った。「まちなか被災シミュレーション」「公民館企画運営委員会の研修とサポート(3回)」	41 名
おすそわけマーケット	常設	ひと昔前なら日常にあった「おすそわけ」の習慣や近所づきあいをセンターで復活させるプロジェクト。おすそわけから始まる新しい地域コミュニケーションとして、利用者の層を広げた。	—

その他、東日本大震災により吹田市に避難された方の相談窓口を開設。

平成 29 年度（2017 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 4

6 調査・研究・政策提言など市民公益活動の社会的環境整備を行う事業

市民公益活動団体実態調査（団体運営の実態や課題を把握するため、5 年毎の定期調査として実施）

7 施設運営について

① 利用者懇談会：施設利用者にセンターの運営や利用、サービスに関する意見を出してもらい運営に反映。4 回開催。

② ボランティア制度：登録ボランティア（ラコルタサポーター）がニュースレターの企画編集やテーマカフェの企画進行を行うなどセンター事業への積極的な参画があった。単発短時間で取り組める「ぷちボラ」では、ボランティア体験の機会を提供、ボランティアチーム「あつめーる」では、使用済み切手やはがきの収集を行い、アフリカの植林支援のための寄付をした。

8 自主事業

① コミュニティカレッジ 「eN カレッジすいた」

地域人材育成を目的に第 4 期「eN カレッジすいた」を平日夜間に実施。ラコルタ以外で実施している人材育成の講座を連携講座と位置づけ、これから活動をはじめたい市民への有益な情報提供も行った。スキルアップ講座あり。修了生からラコルタサポーターへの登録が多数あった。

② 他事業から生まれる交流・連携

施設運営の様々な場面で交流・連携を図った。相談等事業の対応結果として、交流・連携を生み出す事業の会場貸与、広報支援などのサポートを行った。また、協働マッチング事業から発展させることもできた。